

教育研究業績書

2022年05月09日

所属：食物栄養学科

資格：講師

氏名：馬場 正美

研究分野	研究内容のキーワード
給食経営管理、高齢者栄養管理	高齢者、運動と栄養、フレイル、在宅栄養、配食サービス
学位	最終学歴
生活科学修士	椋山女学園大学大学院

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. グループワークを伴う学生参加型授業の実施	2015年4月1日～2021年3月31日	病院、地域、在宅の症例を用い、栄養ケアプロセスに沿った栄養管理や食支援方法について、グループワーク等による学生参加型授業を実施（他大学）。
2. 調理・実習を伴った教育の実践	2021年4月1日～現在	嚥下調整食の作り方、在宅におけるフィジカルアセスメントなどの実習を伴う授業を実施（他大学）。
2 作成した教科書、教材		
1. 管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠（第9巻） 栄養教育論	2022年4月1日発行	日本栄養改善学会による栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの教材である。担当執筆内容は、「高齢者福祉施設における栄養教育（集団指導）」について高齢者施設における介護予防教室の実践例について執筆した。P161-166
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 管理栄養士養成校の卒業研究支援	2012年4月1日～2021年3月31日	病院入院患者や地域の高齢者、配食サービスを利用する高齢者を対象とした臨床研究フィールドとして、11研究の支援を行った。
2. 臨地実習受け入れ施設として学生指導の実施	2016年4月1日～2022年3月31日	老人保健施設および回復期リハビリテーション病棟の2施設において、管理栄養士養成校より年間50名程度の学生の臨地実習の受け入れを行った。実習内容は、施設内の患者や利用者への栄養管理や食支援だけではなく、在宅訪問栄養指導や認知症カフェ（地域高齢者、地域認知症高齢者）への支援を組み込んだ実習を実施した。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 管理栄養士	1989年11月10日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 新生会第一病院の透析患者の実態および合併症と栄養管理の実際	共	1992年8月発行	臨床透析 vol.8, No.9, P.97-101.	井上啓子, 馬場正美, 児玉いずみ, 中山富美子, 武田英子. 概要;通院している血液透析患者を対象とし、合併症や食事摂取状況などの実態を調査した報告である。
2. 血液透析患者の血清P値とリン交換表の実際	共	1994年8月発行	臨床透析 vol.10, No.13, P.79-84.	井上啓子, 中山富美子, 馬場正美, 児玉いずみ. 概要;リン交換表を用いた効果的な栄養指導方法について述べている。リン交換表とはリン量50mg量を含むたんばく源を1単位と換算し、透析患者の血清リン値を適正に保つために、栄養指導の実践の場でリン交換表を活用して栄養指導を実施した結果についての報告した。
3. 特殊食品の利用	共	1998年9月発行	臨床栄養 vol.93, No.04, P.449-	井上啓子, 馬場正美. 特別用途食品および特定保健用食品種類についてとそれらの成分に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
4. 管理栄養士がすすめる介護食七変化メニュー500	共	2005年9月発行	459. 中央法規出版, P138-153	ついて記している。食品数は約300種類の成分値を表記し、それらの活用方法について述べている。 監修;西堀すき江,五十嵐佳葉,著者;伊藤浩子,岡本夏子,加賀谷みえ子,馬場正美,ほか。 概要;介護食の献立集である。計500種類の献立例を提示しており、とくに,1食当たりの目安を把握できるように,すべての食事は同じ器に盛り付け,1食あたりのエネルギー量を500kcalに統一して作成した献立集である。
5. 高齢者の糖尿病 セレクトメニュー導入による糖尿病入所者への幅広い食事提供	単	2006年8月発行	臨床老年看護 vol. 13, No. 3, P. 83-88.	糖尿病によって食事制限を強いられる場合があることから,通常は選択メニューが対象とされない場合が多い。しかし,食の楽しさを保つため,糖尿病食にもセレクトメニューを導入し,利用者へのQOLを考慮した食事提供を行う意義について述べている。
6. 糖尿病性腎症で低栄養状態の患者への在宅訪問栄養食事指導の実例	単	2013年2月発行	臨床栄養 vol. 123, No. 6, P. 754 -759.	在宅訪問栄養食事指導を行っていた糖尿病性腎症の1症例についての管理栄養士の栄養介入についてまとめたケースレポートである。
7. 第1回 高齢者の在宅生活を支える 栄養改善	単	2013年4月	月刊デイ 第1回, QOLサービス (株), P. 120- 122.	通所リハビリテーション利用者の栄養改善への取り組みについて,その具体的な介入方法や取り組み方,介護保険制度の仕組みについて述べている。
8. 第2回 食事と栄養に関する講義	単	2013年5月発行	月刊デイ 第2回, QOLサービス (株), P. 95-97.	通所リハビリテーションにおける食事と栄養をテーマとし,利用者に向けた継続的なミニレクチャーは,在宅での食事のとり方について理解を深めるうえで意義があると述べている。
9. 第3回 食事記録の記入と食事相談	単	2013年6月発行	月刊デイ 第3回, QOLサービス (株), P. 110- 112.	通所リハビリテーションにおいて在宅での食事摂取状況の聞き取りや食事摂取記録の方法と食事相談の具体的な方法について述べている。
10. 第4回 栄養スクリーニングから始まる栄養ケア・マネジメント	単	2013年7月発行	月刊デイ 第4回, QOLサービス (株), P. 116- 119.	通所リハビリテーションの栄養スクリーニングの項目,多職種が記載するための栄養スクリーニングの記入ポイントや記入にあたっての注意点について述べている。
11. 第5回 カンファレンス	単	2013年8月発行	月刊デイ 第5回, QOLサービス (株), P. 94-96.	通所リハビリテーションにおけるカンファレンスの進め方について述べ,栄養士のカンファレンス参加の意義について述べている。
12. 第6回 選択メニューの実施	単	2013年9月発行	月刊デイ 第6回, QOLサービス (株), P. 102- 104.	通所リハビリテーション利用者へ選択メニューを行うことで摂取量の改善やQOLの向上につながり,施設としてのメリットにもつながることを述べている。
13. 第7回 栄養士と調理師との連携	単	2013年10月発行	月刊デイ 第7回, QOLサービス (株), P. 128- 130.	通所リハビリテーションにおける食事の提供は栄養士と厨房栄養士や調理師との連携が重要である。とくに食事形態や体調によっては随時食事変更が必要になる場合があることとスムーズな連携方法について述べている。
14. 第8回 通所リハビリテーションにおける栄養状態の評価と栄養補助食品の利用、食形態の評価	単	2013年11月発行	月刊デイ 第8回, QOLサービス (株), P. 122- 124.	通所リハビリテーションにおける栄養状態の評価(アセスメントデータ)と栄養補助食品の使い方,食形態の評価方法について述べている。
15. 第9回 他の事業所との連携	単	2013年12月	月刊デイ 第9回, QOLサービス (株), P. 142- 144.	通所リハビリテーションと他の在宅サービス(訪問診療,訪問看護,訪問介護,訪問リハビリ,訪問歯科など)との連携の在り方や連携方法について述べている。
16. 第10回 配食サービスとの連携	単	2014年1月発行	月刊デイ 第10回, QOLサービス (株), P. 116- 118.	通所リハビリテーション利用者に対し,在宅における食支援の一つである地域の配食サービスの位置づけについて述べている。
17. 第11回 訪問栄養食事指導との連携	単	2014年2月発行	月刊デイ 第11回, QOLサービス (株), P. 118- 120.	通所リハビリテーション利用者と訪問栄養食事指導のサービスを併用した介入症例の紹介と在宅での栄養管理や食支援のサービスについて述べている。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
18. 第12回 ミールラウンドの進め方	単	2014年3月発行	月刊デイ 第12回, QOLサービス (株), P.107-110.	通所リハビリテーションにおける利用者のミールラウンドとミールラウンドのポイントについて述べている.
19. 本当に知りたかった「介護と老後」健康のベースはバランスのよい食事から	単	2015年1月発行	名古屋リビング新聞社 最新ガイド 2015, P.24-25.	介護予防を焦点とした献立を数例を紹介し, 高齢者の食事のとり方についてのポイントについて述べている. とくにフレイル等にも考慮したエネルギー, たんぱく質などの栄養素の摂り方について述べている.
20. 嚥下調整食にみる介護食のイノベーション (連載)	単	2015年8月～10月発行	老健8月号, P.44-48. 老健9月号, P.32-26. 老健10月号, P.40-43.	嚥下調整食の食支援の実践に役立つ情報として嚥下調整食の学会分類について, 嚥下調整食を生かす食材の選択, 料理の工夫, ころみの使い方について, 市販の介護食の紹介と利用方法について述べている.
21. 愛知県栄養士の取り組み: 在宅における食と栄養管理を担う人材育成および地区組織活動の整備	単	2018年12月発行	日本栄養士会雑誌 Vol.61, No.12, P.10-11.	愛知県栄養士の委員会組織である在宅医療・介護委員会の役割と具体的な取り組みについて紹介し, 現状と今後の課題について述べている.
22. 高齢者の栄養管理 パーフェクトガイド 在宅高齢者への栄養管理の実践	単	2019年1月発行	臨床栄養 vol.135, No.4, P.754-759.	地域高齢者の健康リテラシーを向上させる取り組みとして, 高齢者向けの食育サロン等の実施と, 地域の栄養管理, 食支援の課題について述べている.
23. 患者に寄り添う食事サービス 在宅高齢者をつなぐ食支援	単	2020年3月発行	Nutrition Care, Vol.13, No.6, P.74-77.	高齢者の栄養管理の中でも在宅や地域における栄養士の関りについて紹介している. また, それぞれの地域ごとに地域の特性は異なることから, 栄養士としてできることをかたちにしていくことの重要性について述べている.
24. 健康長寿を目指す地域や在宅での関わり	単	2021年3月発行	日本栄養士会雑誌 Vol.63, No.63, P.26-27.	管理栄養士の活動最前線の記事である. 在宅栄養専門管理栄養士として在宅患者への関りや地域への栄養や食支援についての現状と課題を述べている.
25. 訪問栄養食事指導実践テキストブック	共	2021年4月発行	著者名: 日本在宅栄養管理学会, 出版社メディケアプラス, 担当執筆; 第1章第12節P45-46, 第4章P125-127および第4章P125-179編者	前田佳子, 田中弥生, 水島美保, 高崎美幸, 馬場正美, 前田玲, 本川佳子ほか 概要: 在宅訪問栄養指導を行うための実践的なテキスト本である. 内容は, 医療や介護保険制度における位置づけや様々な疾患をもつ在宅療養者への介入方法についてまとめたテキスト集である.
26. 在宅訪問管理栄養士インターネットカレッジ資料	共	2021年4月1日発行	一般社団法人日本在宅栄養管理学会 発行	前田佳子, 中村育子, 井上啓子, 田中弥生, 高崎美幸, 工藤美香, 江頭文江, 馬場正美. 概要: 公益社団法人日本栄養士会特定分野認定制度 在宅訪問管理栄養士取得のためのインターネットカレッジ教材である. (事前学習, 講義3, 講義4を担当)
27. 科学的介護情報システム (LIFE)の栄養ケア・マネジメントへの活用LIFEが活かすデータとなるために	単	2022年2月発行	臨床栄養, 医歯薬出版, 第140巻, 第2号, 別冊P162-168	科学的介護介護の推進により介護現場ではLIFEへのデータ入力が始まり, データ入力においては, 科学的な介護の指標になることから重要なデータである. データを入力するまでの現場での課題と入力の際の注意点について述べている.
2 学位論文				
1. 回復期リハビリテーション病棟退院高齢患者の退院時栄養状態, ADL, 認知機能およびQOLが退院後の在宅生活に及ぼす影響	単	2016年3月15日	椋山女学園大学大学院生活科学研究科 修士論文 生活科学修士 第214号	回復期リハビリテーション病棟入院患者および退院1年後の栄養状態, ADL, QOLなどを評価し, 継続して在宅生活ができる要因について評価した. とくに在宅生活を安定して継続できる要因にはADLが関連しており, ADLを良好に保つためには栄養状態が良好であることが在宅生活を継続できる1つの要因であった.
3 学術論文				
1. 栄養補助食品を用いた高齢低栄養患者への栄養介入研究	共	2013年9月発行	日本臨床栄養学会雑誌 Vol.35, No.4, P.216-228.	井上啓子, 馬場正美, 尾上聖良, 澤村香菜子, 佐藤斉, 藤村尚子, 千葉康雄, 加藤昌彦 概要: 高齢入院患者に対し, BCAAを強化した栄養補助食品と強化して

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. 初めて配食サービスを利用する在宅高齢者の栄養状態～継続状況と1年後の比較～	共	2015年6月発行	日本在宅栄養管理学会誌 JHNMS Vol.2, No.1, P.9-17.	いない栄養補助食品を摂取させ、栄養状態等を比較検討した。BCAAを強化した栄養補助食品を摂取した患者は、レチノール結合たん白、プレアルブミン、アルブミンなど摂取4週目から有意に改善が認められた。 井上啓子, 馬場正美, 田川早栄, 杉浦聖子, 澤村香菜子, 尾上聖良 概要: 在宅高齢者で、初めて配食サービスを利用した在宅高齢者に対し、1年後の栄養状態・食事摂取状況等について評価した。在宅高齢者は、配食サービスを1年間継続することによって、食事摂取栄養素等量のうちミネラル摂取量の増加が認められ、配食サービスを継続することは在宅高齢者の食支援の1つとして重要であると考えられた。
3. 在宅高齢者のための配食サービス	単	2016年5月発行	保健の化学 第58巻, 第5号, P.343-347.	在宅高齢者が抱える食事や栄養管理の問題として低栄養または低栄養の恐れありが7割にのぼるとされる。とくに高齢の単独世帯、夫婦のみの世帯の増加とともに、地域の食支援として配食サービスは重要なサービスとなっている。また、配食サービスは食支援の役割のみならず、高齢者の見守り支援としても重要な役割を果たしている。
4. コラーゲンペプチドが骨格筋量に及ぼす影響～回復期リハビリテーション病棟高齢患者への介入研究	共	2020年7月発行	日本老年医学会雑誌 Vol.57, No.3, P.291-299.	馬場正美, 洲崎英子, 平良梢, 伊藤友里, 加地ひかり 概要: 回復期リハビリテーション病棟の入院患者に対し、コラーゲンペプチド入りの栄養補助食品を用いたランダム化比較研究を行い、骨格筋量の変化量について評価した。結果よりコラーゲンペプチド入りの栄養補助食品の摂取群は骨格筋量が増加し、骨格筋量の変化量を一日あたりに換算しても、付加しなかった群よりも骨格筋量は増加していた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1. シンポジスト 地域における栄養士同士の歩み寄り		2017年7月	第7回日本在宅栄養管理学会学術集会シンポジウム(東京)	「栄養士間の連携～食をつなぎ、紡ぐために～」というテーマのシンポジウムにて地域や在宅の現状と課題について述べた。
2. シンポジスト 配食サービス利用者の栄養ケアプロセスと課題～管理栄養士の立場より～		2017年10月	第64回日本栄養改善学会学術集会シンポジウム(徳島)	配食サービスガイドラインと配食サービス事業所としての取り組みおよび地域高齢者の食支援と栄養管理における実践と課題について述べた。
3. シンポジスト 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み強化と栄養士の役割		2018年7月	第6回日本在宅栄養管理学会学術集会シンポジウム(名古屋)	在宅や地域における栄養士・管理栄養士の取り組みについてと今後の展望について述べた。
4. シンポジスト 在宅における食と栄養管理の実践		2018年10月	第39回日本臨床栄養協会総会、第40回日本臨床栄養学会総会シンポジウム(東京)	在宅医療における栄養の問題、地域包括ケアシステムの観点からをテーマとしたワークショップで在宅や地域における食支援や栄養管理の課題について述べた。
5. シンポジスト 生活を支える在宅栄養管理の現状と役割～地域における健康リテラシー向上への取り組みの必要性～		2019年10月	第40回日本臨床栄養協会総会、第41回日本臨床栄養学会総会(名古屋)	地域包括ケア・在宅医療における食・栄養課題のシンポジウムにて地域の食や栄養についての取り組みと現状の課題について述べた。
2. 学会発表				
1. 視力障害の自立に向けた栄養教育のあり方について	共	1992年11月	第36回日本透析療法学会(現:日本透析医学会)	馬場正美, 井上啓子, 児玉いずみ, 中山富美子, 武田英子 概要: 視力障害の透析患者に対し、調理実習を伴う栄養指導を実施し自立に向けた栄養教育のあり方について述べている。
2. 貧血患者の摂取栄養量の評価EPO投与前と投与後の摂取栄養量の比較	共	1992年11月	第36回日本透析療法学会(現:日本透析医学会)	井上啓子, 馬場正美, 児玉いずみ, 中山富美子, 武田英子 概要: 貧血患者の摂取栄養量の評価について、EPO投与前と投与後の摂取栄養量について述べている。
3. Protein Catabolic Rateと食事調査による	共	1993年11月	第37回日本透析療法学会(現:日本	井上啓子, 馬場正美, 児玉いずみ, 中山富美子 概要: Protein Catabolic Rateと食事調査による摂取蛋白質量の比較

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
る摂取蛋白質量の比較			透析医学会)	を行なった結果について述べている。
4. 無機質の計算値と実測値の違い及び調理後の重量変化について	共	1994年10月	第38回日本透析療法学会 (現：日本透析医学会)	井上啓子, 児玉いずみ, 馬場正美, 中山富美子 概要;透析食の献立による無機質の計算値と調理後の実測値の違いと調理後の重量変化についての測定結果と, 栄養指導の活用方法について述べている。
5. 血液透析患者の塩分管理における超低塩醤油の有用性について	共	1994年10月	第38回日本透析療法学会 (現：日本透析医学会)	児玉いずみ, 井上啓子, 馬場正美, 中山富美子 概要;血液透析患者の塩分管理が重要であるが, 超低塩醤油を利用した患者の食事管理の有用性について述べている。
6. リン交換表による食事指導 I 血液透析患者の食事療法に対する意識と血清Pi値	共	1995年6月	第39回日本透析療法学会 (現：日本透析医学会)	井上啓子, 馬場正美, 児玉いずみ 概要:たんぱく質3gを1単位としたリン交換表を作成し, リン交換表を用いた食事指導により, 食事療法に対する意識と血清Pi値に差があるかどうかについて検討した結果について述べている。
7. リン交換表による指導IIリン交換表による食事講習会の実際とその効果	共	1995年6月	第39回日本透析療法学会 (現：日本透析医学会)	馬場正美, 井上啓子, 児玉いずみ, 中山富美子 概要;リン交換表を用いた食事講習会を行い, その実践についてと効果について述べている。
8. 透析導入患者と長期透析患者の教育と摂取栄養量の比較	共	1997年11月	第41回日本透析療法学会 (現：日本透析医学会)	井上啓子, 馬場正美, 児玉いずみ 概要:透析導入患者と長期透析患者の教育と摂取栄養量の比較を行ない, 長期の透析が可能になる要因について報告した. 長期透析患者は摂取栄養量が多い結果であったことを述べている。
9. 栄養補助食品の低栄養高齢者への栄養改善効果に関する検討	共	2012年10月	第34回日本臨床栄養学会総会・第33回日本臨床栄養協会総会	井上啓子, 馬場正美, 百木万里子, 小塚恭子, 尾上聖良, 澤村香菜子, 加藤昌彦 概要;回復期リハビリテーション病棟入院患者の低栄養高齢者を対象として, 2種類の栄養補助食摂取させ, 栄養改善効果を検討した研究結果について述べている。
10. 配食サービスを利用している在宅高齢者の栄養状態	共	2012年10月	第34回日本臨床栄養学会総会・第33回日本臨床栄養協会総会	馬場正美, 井上啓子, 百木万里子, 小塚恭子, 尾上聖良, 澤村香菜子 概要;配食サービスを利用している205例の在宅高齢者を対象とし, 栄養状態, 食事摂取状況, 介護サービスなどの調査を行い, 配食サービスの意義について述べている。
11. 配食サービスを3年間継続利用している高齢者の栄養状態	共	2013年9月	第59回日本栄養改善学会学術集会	馬場正美, 井上啓子 概要;配食サービスを3年継続している高齢者の栄養状態を1年目から3年目までの栄養状態, 食事摂取量等を評価した研究発表である. 配食サービスを利用していた高齢者は, 栄養状態, 食事摂取量ともに維持していたことから, 継続的に配食サービスを利用することは意義があると述べている。
12. 新規に配食サービスを利用した高齢者の開始時と1か月後の栄養状態の比較	共	2013年10月	第35回日本臨床栄養学会総会・第34回日本臨床栄養協会総会	馬場正美, 井上啓子, 小西万里子, 小塚恭子, 植村愛子, 尾上聖良, 山田千里, 澤村香菜子, 鷹屋瑞希, 江口佳奈江 概要;配食サービスを利用開始した65例を対象として, 1か月後の食事摂取状況, 栄養状態等を評価した研究発表である. 配食サービスを利用することに酔って, ビタミンなどの摂取量が増加した配食サービスの開始は摂取量増加につながり, 地域高齢者の食支援として有益であると述べている。
13. 配食サービスを4年間継続利用している高齢者の栄養状態	共	2014年8月	第61回日本栄養改善学会学術集会	馬場正美, 井上啓子 概要;配食サービスを利用してから4年間の栄養状態, 食事摂取状況等を評価した研究発表である. 4年間の継続者は, 摂取栄養素等量や栄養状態が配食サービス開始当初から維持していた. 配食サービスの利用は, 地域高齢者の栄養状態を維持するための1つの要因となっていると述べている。
14. 新規に配食サービスを新規に利用する在宅高齢者の栄養状態	共	2014年10月	第36回日本臨床栄養学会総会・第35回日本臨床栄養協会総会	井上啓子, 馬場正美, 澤村加奈子 概要;配食サービスを新規に開始した地域高齢者の1か月後の食事摂取状況や栄養状態などを検討し, 配食サービスを含めた食事摂取は高齢者の栄養管理に有効であるとまとめている。
15. 胃切除後の後遺症により低栄養状態となった療養者への訪問栄養食事指導	共	2015年6月	第3回日本在宅栄養管理学会	胃全摘出後のダンピング症候群により, 低使用状態となった症例に対する食支援などの介入についてまとめた内容を報告した。
16. 在宅高齢者の配食	共	2015年9月	第62回日本栄養改	馬場正美, 井上啓子, 澤村加奈子

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
サービス利用による効果～利用開始前と1年後の評価～			善学会（福岡）	概要;配食サービスを利用開始から1年間継続利用した者の栄養状態や食事摂取量について調査し、配食サービスの利用効果について述べている。
17. 配食サービスを継続利用した高齢者の栄養状態平成22から26年度までの5年間の追跡調査より	共	2015年10月	第37回日本臨床栄養学会総会・第36回日本臨床栄養協会（東京）	馬場正美, 井上啓子, 澤村加奈子 概要;配食サービスを継続利用した高齢者の栄養状態 平成22から平成26年度までの5年間の追跡調査結果と地域の支援としての配食サービスの意義について報告した。
18. 後期高齢者の身体活動量と栄養状態 自立支援高齢者と要支援高齢者の比較	共	2016年6月	第4回日本在宅栄養管理学会	田島久美子, 馬場正美, 井上啓子, 田中杏枝, 中島和美 概要;在宅で生活する後期高齢者のうち、自立群と支援群について、身体活動量と栄養状態を比較した。自立群は、血清アルブミン値が有意に高く、支援群は血糖、インスリン値が高くなっていた。
19. 介護力の少ない認知症高齢糖尿利用者への訪問栄養食事指導 訪問開始から1年6ヵ月後の訪問を通して	共	2017年7月	第5回日本在宅栄養管理学会	認知症、糖尿病のコントロールが不良の高齢患者のケースに対して行った訪問による食事や栄養介入についての経過を報告した。
20. 在宅に向けた食と栄養教育の必要性 回復期リハ病棟入院患者と地域高齢者の体組成、食品摂取頻度等の比較より	共	2019年7月	第7回日本在宅栄養管理学会	馬場正美, 伊井恵. 退院する患者の体組成と21例の地域高齢者の体組成を比較し、食事摂取頻度などの違いがあるかどうかについて検討を行った。
21. 在宅退院患者の骨格筋量の変化に関連する食事要因と低栄養に対する啓発および教育活動	共	2020年6月	第2回日本在宅医療連合学会大会	馬場正美, 伊藤友里, 平良梢 入院から退院までに運動と栄養介入により骨格筋量が改善した患者のエネルギーとたんぱく質摂取量を比較した報告である。
22. コラーゲンペプチド入り栄養補助測品が高齢者の骨格筋量に及ぼす影響～回復期リハビリテーション病棟患者への介入研究～	単	2020年10月	第22回骨粗鬆症学会	回復期リハビリテーション病棟の患者を対象としてコラーゲンペプチド入りの栄養補助食品を摂取させ、骨格筋量への影響を評価した研究報告である。
23. 配食サービスを10年間継続していた地域高齢者の栄養素等摂取量の関連	共	2021年6月	第10回栄養改善学会東海支部会学術総会	馬場正美, 井上啓子, 若山雅博, 岡田温 配食サービスを自宅で10年間継続していた地域高齢者の食事摂取栄養素等量についてまとめた。10年間配食サービスを継続していた高齢者は10年前の調査時点での栄養状態は良好であったことを述べた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. シンポジスト 老健施設における食事サービスのあり方 栄養ケア・マネジメントの面から		2006年11月8日～10日	第17回全国介護老人保健施設大会（熊本大会）	「新たな包括的地域ケアをめざして」というテーマで栄養士の立場よりシンポジストとして講演を行った。老健施設においては地域包括ケアシステムの位置づけとしても地域支援が重要であることを述べた。
2. 研究発表 栄養補助食品を用いた高齢低栄養患者への栄養介入研究	共	2012年11月6日～8日	第24回全国介護老人保健施設 沖縄大会	回復期リハビリテーション病棟の高齢患者に対し、栄養補助食品を用いた介入研究を行った結果、BCAA、MCT、ビタミンB群を強化した栄養補助食品を摂取することにより栄養改善効果がより高い結果であったことを述べた。
3. 講師 市民公開講座 「高齢者のやせと肥満 食生活でロコモ予防 運動と栄養の		2019年1月27日	(NPO法人) 八事整形医療連携会主催	第44回八事整形医療連携会主催の市民公開講座にて講師として講演を行った。高齢者の肥満とやせの問題と食生活における注意点などを市民向けに講演を行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
関連について」				
4. 研究発表 回復期リハ病棟入院患者の体組成成分と栄養評価入院患者と地域高齢者の比較より	共	2019年2月21日	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会	回復期入院患者と地域高齢者の体組成を計測し、比較検討した内容の報告を行った。入院患者は、骨折や脳卒中の発症により骨格筋量の減少が著しいことから入院期間中のリハビリや栄養介入の重要性について研究発表を行った。
5. 講師 栄養士向け講演会		2019年5月14日	(公社) 岐阜県栄養士会 主催	「地域ケア会議における栄養士の役割」について栄養士向けに講演を行った。
6. 講師 専門職研修会		2019年5月18日	愛知県認知症疾患医療センター主催	「認知症と栄養管理」について医師、栄養士、看護師などの多職種に向けて講演を行った。
7. 講師 医師向け講演会		2019年5月30日	(一社) 名古屋市東区医師会 主催	「市販の総菜を活用した疾患別の食事管理」について在宅の医師向けに講演を行った。
8. 講師 栄養士向け講演会		2019年7月7日	(公社) 福岡県栄養士会 主催	「ICFの基づいた栄養管理の進め方 栄養管理プロセスと栄養介入」について栄養士向けに講演を行った。
9. 講師 栄養士向け講演会		2019年8月31日	(公社) 愛知県栄養士会 主催	「在宅の栄養管理」について栄養士に向けた講演を行った。
10. 講師 栄養士および多職種向け講演会		2019年9月28日	公社) 愛知県栄養士会 主催	地域における連携の課題について生涯学習の講師を行った。
11. 講師 栄養士向け講演会		2019年11月3日	(公社) 大阪府栄養士会	「地域栄養ケア会議から在宅訪問に繋げる仕組み」 「在宅訪問の実際と症例報告」について講演を行った。
12. 講師 多職種向け講演会		2020年1月	(公社) 愛知県医師会	「摂食・嚥下機能支援に関する研修会」視点をかえると見えてくる摂食嚥下障害の実際」について医師をはじめ、栄養士、看護師、言語聴覚士などに向けた研修会で講演を行った。
13. 講師 栄養士向け講演会		2020年2月1日	(公社) 静岡県栄養士会 主催	「健康長寿と地域高齢者の栄養の課題」について栄養士に向けた研修会にて講演を行った。とくに地域ケア会議への栄養士・管理栄養士の介入や在宅地域におけるニーズについて述べた。
14. 講師 薬剤師向け講演会		2020年2月6日	豊田加茂薬剤師会および持田製薬株式会社 主催	「在宅における地域高齢者の食支援と市販のそうざいを利用した疾患別の食事管理」について薬剤師向けに講演を行った。
15. 講師 地域・在宅の多職種向け講演会		2020年9月1日	東海市医師会主催	オンデマンド配信にて、在宅や地域における管理栄養士の介入の現状と具体的な介入方法について述べた。
16. 研究発表 自粛のなかでの在宅支援 カフェ、ケア会議参加、在宅患者訪問栄養食事指導(居宅療養管理指導)の継続	共	2021年3月1日	(公社) 愛知県栄養士研究大会2021	地域高齢者を対象とした認知症カフェや介護予防教室、訪問栄養食事指導についての取り組みとコロナ渦における課題についてまとめた内容について研究報告を行った。
17. 研究発表 回復期リハ病棟(入院料1)において食べる支援と動くことがもたらす効果と課題	単	2021年3月11日	第6回 東海 Geriatric Nutrition 研究会	高齢者における運動療法と栄養療法の実践と回復期リハ病棟の栄養介入についての効果と課題についての現状とこれまでの研究内容についての報告を行った。
18. 講師 歯科医師向け講演会		2021年5月13日	名古屋市名東区歯科医師会 主催	「健康と栄養の話 どのくらい?いつ・どのような食事をすべき?」について基礎的な栄養の知識について歯科医師へ講演を行った。
19. 講師 LIFE(科学的介護情報システム)の活用方法について学ぶ研修会		2021年8月23日~計3回実施	(公社) 日本栄養士会 生涯学習研修会	LIFEの活用方法について学ぶ研修会【実践講座(ライブ研修)】根拠に基づいた栄養関連項目を活用した研修会を2021年8月23日、2021年9月10日、2022年2月23日に講師として講演を行った。
20. 講師 摂食・嚥下研修会		2021年12月18日	公社) 愛知県医師会 主催	医師・歯科医師・看護師・ケアマネジャー・栄養士等を対象とし、摂食・嚥下症例へのアプローチとして実践に役立つ介入方法について述べた。
21. 講師 摂食・嚥下研修会		2022年2月13日	(公社) 愛知県医師会 主催	「摂食・嚥下機能支援に関する研修会」について医師、栄養士、看護師、言語聴覚士などに向けた講演を行った。
6. 研究費の取得状況				
1. 平成30年度公益財団法人 勇美記念財団		2018年3月	公益財団法人 勇美記念財団	平成29年度前期 公益財団法人勇美記念財団より在宅医療助成を受け、「人生の最期の在宅看取りにおける食べることの意義」について

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
在宅医療助成				市民公開講座の開催について在宅医療における助成を受け、平成30年3月31日に市民公開講座を実施し、参加者等へ評価を実施した。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2003年5月～2019年5月	地域の健康教育 善常会健康フェスタ実行委員長
2. 2012年4月1日～現在	一社) 日本栄養士会JDA-DAT (災害支援) リーダー
3. 2012年4月1日～現在	一社) 日本口腔ケア学会 評議員
4. 2013年4月～現在	一社) 日本臨床栄養学会 会員
5. 2013年4月～現在	一社) 日本健康・栄養システム学会 会員
6. 2015年4月～現在	地域包括支援センターや地域住民への食育活動
7. 2016年1月～2016年3月	メディア出演 ラジオ放送にて健康ライブラリーに出演
8. 2016年4月1日～現在	一社) 日本在宅栄養管理学会 東海・北陸ブロック長
9. 2016年4月1日～現在	一社) 日本在宅栄養管理学会 理事・評議員
10. 2016年4月1日～2022年3月31日	一社) 愛知県老人保健施設協会 栄養士部会長
11. 2016年4月1日～2022年3月31日	公社) 愛知県栄養士会 在宅医療・介護委員会委員長
12. 2017年6月～2020年1月	地域住民サロン 認知症カフェ (にっこりカフェ) 支援
13. 2018年4月1日～2022年3月31日	一社) 愛知県老人保健施設協会 広報委員および研修委員
14. 2018年4月1日～2022年3月31日	公社) 愛知県栄養士会 理事
15. 2018年4月1日～2022年3月31日	一社) 名古屋市医師会 東区在宅医療推進委員
16. 2019年4月～現在	一社) 日本老年医学会 会員
17. 2019年4月1日～現在	NPO法人 八事整形連携会 世話人
18. 2020年4月～現在	一社) 日本骨粗鬆症学会 会員
19. 2020年4月1日～2022年3月31日	愛知県在宅医療推進協議会推進委員
20. 2021年4月～現在	特定非営利法人 日本栄養改善学会 会員
21. 2022年4月1日～現在	一社) 日本在宅医療連合学会 東海・北陸ブロック世話人